

タイ文字

鈴木 玲子

タイ文字は、シャム文字と言うこともあります。その使用人口は、タイ王国（以下、「タイ」と略す）内に約5800万人いると言われています。

碑文が比較的多く見ついているタイ文字の歴史は、現在のタイのもとになった統一国家であるスコタイ王朝に遡ります。その第3代王であるラームカムヘーン大王時代、すなわち13世紀中頃は、スコタイ王朝の最も栄華極まる時代で、王は当時のクメール文字をもとにしてタイ文字を制定したと言われています。現在、国立博物館に納められている「ラームカムヘーン大王碑文」には、当時の文字で「水には魚が、田には米がある」と豊かで安定した国情と「大暦1205年ヤギ年に、ラームカムヘーン大王はタイ文字を作ろうと決意なされた。大王のおかげでタイ文字ができたのである」と文字についても記されています。

タイは植民地化されなかったこともあり、他の東南アジア大陸部諸国に比べてタイ語が国語としてずっと安定した状態を保ってきたので、タイ文字で書かれた文芸作品が数多く残っています。その文字をたどってみると、現在のような形になったのは、今からおよそ350年前のアユタヤ王朝のナライ王時代だと考えられます。

タイ文字とラオ文字を比較すると、とても似ていることに気がつくでしょう。どちらも表音文字で、文字の種類も「子音字」と「母音符号」および「声調記号」の3種類があり、それらを組み合わせて音節を表します。けれどもラオ文字と違って一音一文字主義ではないので、子音字の数が多く、正書法も読まない文字を書くなど、ラオ文字よりずっと複雑です。けれどもその複雑性がかえってサンスクリット語やパーリ語からの借用語であるかどうかがわかるという利点をもたらしています。

例えば、「こんにちは」は次のように書きます。

สวัสดี
[sawàtdi:]

ส・วัสดีの3音節語です。まず、最初の音節 ส [sa] に続いて次の音節 วัส [wat] は、ว が [w]、ั が [a]、ส が [t] を表し、そして最後の音節 ดี [di:] は、ด が [d]、ี が [i:] を表します。全体はそれぞれの音節に声調が加わって、[sawàtdi:] と発音します。たいてい、両手を合わせたポーズで丁寧体を表す文末詞の ครี (男性) 入 ครี (女性) を [sawàtdi:] の後に付けて使用します。この言葉もラームカムヘーン大王の時代にサンスクリット語の「吉祥」という意味から作られた言葉だと言われています。朝昼晩を問わず出会いと別れの挨拶用語です。

[参考文献]

- 三谷恭之「タイ語」、『言語学大辞典』、第2巻、三省堂、pp.529 - 545, 1989.
- 宇戸清治『やさしいタイ語 - 文字の読み書き - 』大学書林、1992.
- 水野潔・中山玲子『書いて覚えるタイ語の初歩』、白水社、1996.
- 水野潔・鈴木玲子『CD エクスプレス・タイ語』、白水社、2000.

(町田和彦編著『華麗なるインド系文字』白水社2001, pp. 186-187より転載)